

大嘗祭当日祭 十一月十四日 午前九時齋行 参列自由

御一代一度の重儀である大嘗祭当日に謹んで大御代の弥栄御祈念申し上げます。
お誘い合わせの上、ご参列頂きますようお願いいたします。

大嘗祭 十一月十四・十五日

毎年秋、天皇陛下は、その年の新穀を、御祖先である天照大御神をはじめ、神々にお供えし感謝を捧げる「新嘗祭」を宮中で御齋行になります。なかでも、陛下が御即位後初めて行われる新嘗祭が「大嘗祭」です。大嘗祭は、天皇御一代に一度行われる祭祀で、御位につかれるうえで不可欠なものであり、数ある祭祀の中で最高の重儀とされています。

大嘗祭は、特別に造営された「悠紀殿」ゆきでん、「主基殿」すきでんを中心とした「大嘗宮」だいじょうきゅうにおいて齋行されます。大嘗宮は古代の工法そのままの簡素な建物で、陛下はそこで古式に則った祭祀を親ら執り行われます。また、大嘗祭は、全国を代表した齋田さいでんから採れた米が神饌として供されるように、まさに国を挙げた祭祀でもあります。新穀を神々に奉る祭祀は、古くは天照大御神がなさっていたことが『古事記』『日本書紀』に記されています。つまり、これは長い歴史を通じて変わることのない天皇陛下の御務めであり、陛下は、大嘗祭を通じて天照大御神の御手振りを今の世に再現されているともいえるでしょう。そして、国家・国民の安寧や五穀豊穰を、天照大御神をはじめとする神々に感謝、また祈念されているのです。

大嘗宮の儀 (悠紀殿供饌の儀・主基殿供饌の儀)

大嘗宮の悠紀殿と主基殿において、夕方から深夜にかけて引き続き祭祀が執り行われます。天皇陛下はまず御身を清められると、純白の御祭服をお召しになり祭祀に臨まれます。そして、悠紀・主基両殿にお入りになると、米をはじめ様々な神饌をお供えになり、御告文を奏された後、その神饌を陛下御自身もお召し上がりになります。